

【別紙様式3】

再 評 価 実 施 事 業 調 書

番 号	4	事業名	流山市公共下水道事業		路線又は箇所名等	江戸川左岸処理区			
事業所管課		下水道建設課			事業主体		流山市		
事業化年度	昭和56年度	用地着手年度			工事着手年度	昭和56年度	再評価の理由	再評価実施後一定期間を経過したため	
					工事終了年度	平成49年度			
費用便益比 B/C	1.9	総費用	1,565億円	総便益	3,006億円	基準年	平成20年度	供用開始 年 度	昭和61年 度

【事業概要】

項目	全体計画(目標年次:H29)	事業計画(完成予定年次:H22)	現況(H20末)
処理区域面積	2,871ha	1,664ha	1,172ha
処理人口	162,000人	102,790人	99,100人
処理能力			
事業費	865億円	537億円	350億円

【事業の進捗状況】

指 標	状 況
事業の進捗状況	平成20年度末時点の整備面積見込みは、事業計画1,664haに対して1,172haを整備し、整備率は70%である。
処理場用地の取得状況	
処理施設の供用状況	
供用開始区域の接続状況	接続率は91%である。
地元情勢等	流山市議会の理解及び地元住民の理解・協力は得られている。

【社会経済情勢等】

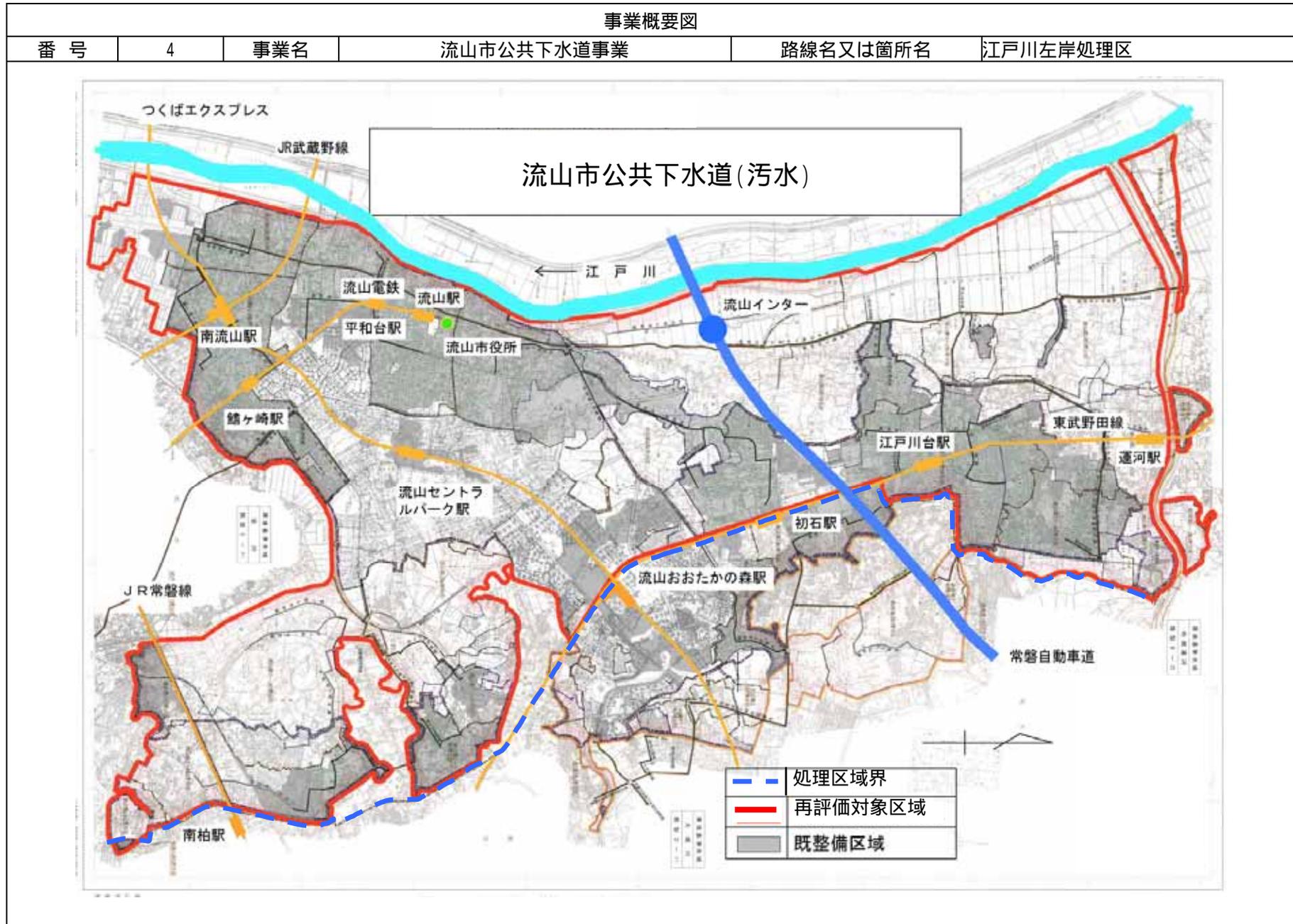
指 標	状 況
社会経済情勢	つくばエクスプレス沿線地区土地区画整理事業については、既に計画に見込んでいることから、下水道事業に影響のある大きな社会経済情勢の変化は特でない。
自然環境条件	水質汚濁に係る水質環境基準の新たな設定等、下水道事業に影響のある要因はない。
計画変更の有無及びその程度	全体計画及び事業計画について、必要に応じ適切に見直している。

【コスト縮減・代替案】

指 標	状 況
コスト縮減	アスファルト合材・路盤砕石等再生資材の利用・汚水最小管径(200 150)・小型マンホールの導入によりコスト縮減に努めている。
代替案	本市の市街化の状況から、代替としての浄化槽整備よりも、下水道整備が最適。

【対応方針(案)】

流山市公共下水道事業(汚水)は順調に進展しており、今後も順調な進展が見込まれることから、当事業を継続していく方針です。



【別紙様式5】

再々評価事業に関する調書

番号	4	事業名	流山市公共下水道事業	路線又は箇所名等	江戸川左岸処理区	
事業化年度	昭和56年度	用地着手年度		工事着手年度	昭和56年度	
【再評価の概要】						
再評価実施年度 (基準年)	平成10年度	供用開始 年度	昭和61年度	対応方針	継続	
B / C		総費用		総便益		
再評価時の委員会の意見及び当時の状況 事業の継続が妥当とのご意見をいただいた。						
再評価時の進捗状況及び再評価時想定の10年後の進捗状況						
		計 画	進捗状況			
全体事業費		1,474億円	248億円			
用地取得面積						
供用面積(延長)		2,871ha	747ha			
【再々評価の概要】						
再評価実施年度 (基準年)	平成20年度	供用開始 年度	昭和61年度	対応方針	継続	
B / C	1.9	総費用	1,565	総便益	3,006億円	
現在の進捗状況						
		計 画	進捗状況			
全体事業費		865億円	350億円			
用地取得面積						
供用面積(延長)		2,871ha	1,172ha			
再評価後の 経過及び 処理状況	再評価時から現在に至るまで、概ね順調に事業が進展している。					

再 評 価 実 施 事 業 調 書

番 号	4	事業名	流山市公共下水道事業		路線又は箇所名等		流山第1排水区他		
事業所管課		下水道建設課			事業主体		流山市		
事業化年度	昭和48年度	用地着手年度	昭和54年度		工事着手年度	昭和48年度	再評価の理由	再評価実施後一定期間を経過したため	
				工事終了年度	平成28年度				
費用便益比 B/C	7.8 ~9.7	総費用	81億円	総便益	773億円	基準年	平成20年度	供用開始 年 度	平成14年 度

【事業概要】

項目	全体計画(目標年次:H29)	事業計画(完成予定年次:H22)	現況(H20)
処理区域面積	412ha	316ha	229ha
処理人口			
処理能力			
事業費	70億円	59億円	39億円

【事業の進捗状況】

指 標	状 況
事業の進捗状況	平成20年度末時点の整備面積見込みは、事業計画316haに対して229haを整備し、整備率は72%である。
処理場用地の取得状況	
処理施設の供用状況	
供用開始区域の接続状況	
地元情勢等	流山市議会の理解及び地元住民の理解・協力は得られている。

【社会経済情勢等】

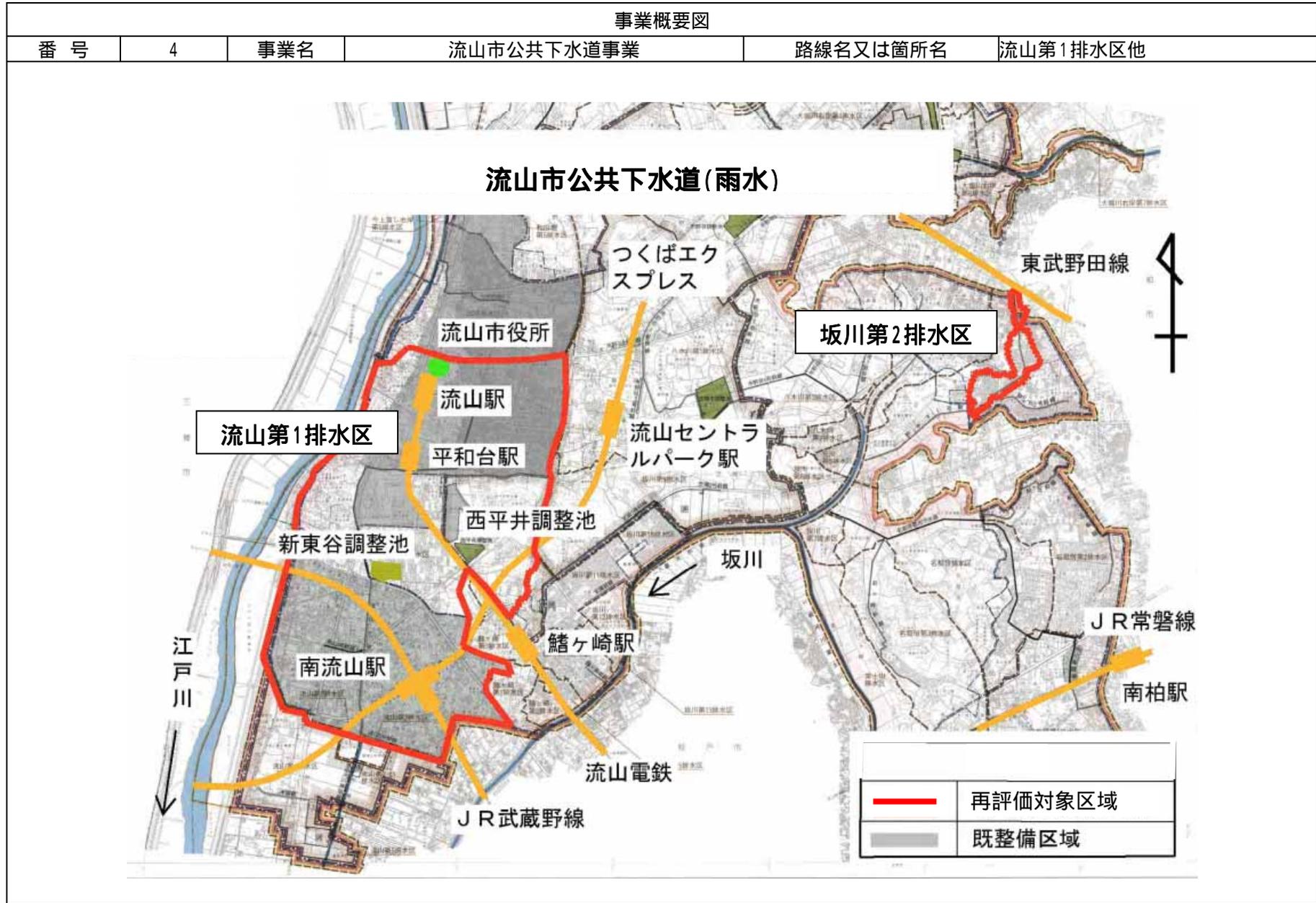
指 標	状 況
社会経済情勢	下水道事業に影響のある大きな社会経済情勢の変化は特でない。
自然環境条件	
計画変更の有無及びその程度	全体計画及び事業計画について、必要に応じ適切に見直している。

【コスト縮減・代替案】

指 標	状 況
コスト縮減	アスファルト合材・路盤碎石等再生資材の利用によりコスト縮減に努めている。
代替案	

【対応方針(案)】

流山市公共下水道事業(雨水)については、今後も引続き整備が必要であることから、当事業を継続していく方針です。



【別紙様式5】

再々評価事業に関する調書

番号	4	事業名	流山市公共下水道事業	路線又は箇所名等	流山第1排水区他
事業化年度	昭和48年度	用地着手年度	昭和54年度	工事着手年度	昭和48年度

【再評価の概要】

再評価実施年度 (基準年)	平成10年度	供用開始 年 度		対応方針	継 続
B / C		総費用		総便益	

再評価時の委員会の意見及び当時の状況
事業の継続が妥当とのご意見をいただいた。

再評価時の進捗状況

	計 画	進捗状況
全体事業費	72億円	29億円
用地取得面積		
供用面積(延長)	434ha	186ha

【再々評価の概要】

再評価実施年度 (基準年)	平成20年度	供用開始 年 度	平成14年度	対応方針	継 続
B / C	7.8～9.7	総費用	81億円	総便益	773億円

現在の進捗状況

	計 画	進捗状況
全体事業費	70億円	39億円
用地取得面積		
供用面積(延長)	412ha	229ha

再評価後の
経過及び
処理状況

再評価時から現在に至るまで、主に幹線管渠及び雨水調整池の建設を進めており、事業は進展している。